



2025年度

驛家橋

福山市駅家町地内

橋梁修繕工事 実施設計書

工 事 概 要	当初設計	
	工事延長	L=13.0m
	橋長	L=13.0m
	有効幅員	W=4.5m
	ひび割れ補修工	L=5m
	断面修復工	V=1.42m <sup>3</sup>
	表面含浸工	A=144m <sup>2</sup>
	水切設置工	L=24m
	塗装塗替工	A=0.3m <sup>2</sup>
	表面処理工	A=54m <sup>2</sup>
仮設工	一式	

## 特記仕様書

### 第1章 総則

#### 第1節 適用

- ・本特記仕様書は、橋梁修繕工事（驛家橋）に適用する。
- ・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
- ・令和7年8月 広島県 土木工事共通仕様書、「設計図書（別冊図面、仕様書）」、「福山市建設工事執行規則」、「福山市工事検査技術基準」
- ・その他関連規格類
- ・小黑板情報電子化を実施しない工事写真について、監督員の承諾を得る必要はないものとする。

#### 第2節 工程表の提出について

- ・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

#### 第3節 地元への周知

- ・受注者は、監督員と協議し、地先住民、町内会長、土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容、方法、時期等の説明を行い、承諾を得ること。
- ・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い、承諾を得ること。

#### 第4節 施工承認図の作成

- ・受注者は、受注後、設計図書に基づき現地を照査し、施工承認図を作成し監督員に提出すること。

#### 第5節 工事に着手すべき期日について（特別な事情がある場合）

本工事は河川管理者との協議により、2026年（令和8年）6月16日から2026年（令和8年）10月20日の間、本体工事及び仮設工事を施工してはならない。  
受注者は、この期間終了日の翌日から30日以内に工事着手しなければならない。

#### 第6節 法定外労災保険の付保について

- ・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

#### 第7節 再生資源利用計画の現場掲示

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

### 第2章 施工条件

#### 第1節 検査期間

- ・本工事は、工期は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

#### 第2節 交通誘導警備員

- 1 片側交互通行及び通行止め等の交通制限を行う場合は、関係官公署の許可条件を遵守し、関係機関との協議を十分に行うこと。また、地域の地元関係者等周辺を利用する市民への周知徹底を図り、安全かつ円滑な交通を確保して事故発生の無いように努めること。
- 2 作業現場、作業用地内の整理整頓に留意して必要な安全施設の設置等を行い、関係者以外の立ち入りを禁止して危険防止に努めること。
- 3 本工事における交通誘導員は、交通誘導警備員Bを見込んでいる。尚、交通誘導警備員の実施伝票は原本を提出すること。
- 4 本工事において交通誘導警備員の積上げ人数は、交通誘導警備員の対象となる施工量に対し作業日当たり標準作業量から必要な人数を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、施工実績等による交通誘導員の積上げ人数の増員に対する変更は行わない。
- 5 受注者は、工事着手に先立ち、交通誘導警備員の配置計画（配置日数及び配置場所）を作成し、監督員と協議すること。

### 第3節 熱中症対策

- ・本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。
- 1 工期（工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日及び後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日間、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日次の日から土曜日、日曜日及び振替休日を除く3日間とする。）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
- 2 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温又は最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。
- 3 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。なお、本工事において、上記地上観測所及び観測地点は、「福山」とすることを標準とする。
- 4 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督員に提出すること。
- 5 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督員と協議するものとする。
- 6 積算方法は次のとおりとする。
  - (1) 補正方法
    - ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。ただし、現場管理費率の補正は、「積算寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本通知の補正値を合計し、2%を上限とする。
    - イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期
    - ウ 補正値（％）＝真夏日率×1.2
  - (2) 補正値の計算結果は、パーセント表示で少数点3位を四捨五入して2位止めとする。
- 7 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることが出来る。
- 8 検査員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

### 第4節 任意仮設

- ・本工事に伴う以下の内容の仮設工は、積算用参考図に見込んでいる。なお、積算用参考図は任意仮設の積算内容を示したものであり、工事目的物を完成させるための一切の手段については、受注者の責任において定めるものとする。

### 第5節 建設副産物について

- (1) 工事受注者は、工事着手前に、次の書類を本工事の監督員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先の現地確認写真を提出すること。
    - 1 建設廃棄物処理計画書
      - ・廃棄物処理業者（収集及び運搬）の許可証の写し（許可車両の自動車登録番号一覧及び自動車検査証の写しを含む）
      - ・廃棄物処理業者（中間処理・最終処分）の許可証の写し（再生資源化施設にあっては、それを示す書類を含む）
      - ・運搬ルート、処分場の位置、事業の範囲、処理能力及び処理方法を明示したもの
      - ・各処分場の現地確認写真
      - ・建設工事の受注者と処理業者（収集、運搬、中間処理・最終処分・再資源化施設）との二者の業務委託契約書の写し
    - 2 再生資源利用計画書
    - 3 再生資源利用促進計画書
  - (2) 工事受注者は、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」及び「建設廃棄物処理計画書」に従い建設廃棄物及び特定建設資材廃棄物が適正に処理されたことを確認し、工事完成時に次の書類を監督員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先への搬入状況の写真を添付すること。
    - 1 再生資源利用実施書
    - 2 再生資源利用促進実施書
    - 3 建設廃棄物処理実施書
      - ・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し
- （マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）
- ・収集及び運搬の写真並びに中間処理場及び最終処分場（直接最終処分の場合のみ）への搬入状況の写真

## 第6節 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））

- ・当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）への搬出が困難となった場合は、監督員と受注者が協議するものとする。
- ・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。
- ・実施伝票は原本を提出すること。

## 第7節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

- ・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。
- ・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。
- ・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。
- ・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基き許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、施設への受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。
- ・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。
- ・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

## 第4章 その他

### 第1節 その他項目

- ・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

### 第2節 福山市週休2日適用工事について

本工事は、持続可能な建設産業に向けた労働環境の改善を目的とする週休2日適用工事の対象工事です。詳細については、別紙（土木関連工事における福山市週休2日適用工事の実施について）によるものとします。

## 土木関連工事における福山市週休2日適用工事の実施について

- 1 福山市週休2日適用工事の実施に係る用語の定義は次の各号に定めるものとする。
  - (1) 「週休2日」とは、次のアからウまでに定める区分に応じ、各条件を満たすものをいう。
    - ア 「完全週休2日(土日)」とは、対象期間の全ての週(原則として、土曜日から金曜日までの7日間とする。以下同じ。)毎に現場閉所又は現場休息(以下「現場閉所等」という。)を原則として土曜日及び日曜日に指定し、1週間に2日以上現場閉所等を行うものをいう。
    - イ 「月単位の週休2日」とは、対象期間内の全ての月毎に現場閉所等の日数が、4週8休(現場閉所等の割合が28.5%(8日/28日)以上のものをいう。以下同じ。)以上であるものをいう。
    - ウ 「通期の週休2日」とは、対象期間内において現場閉所等の日数が4週8休以上のものをいう。
  - (2) 「現場閉所」とは、巡回パトロール、保守点検等の現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場及び現場事務所が閉所された状態をいう。
  - (3) 「現場休息」とは、分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態をいう。
  - (4) 「対象期間」とは、工事着手日(準備期間(契約上の工事の始期から現場事務所などの設置、測量、本体工事又は仮設工事のいずれか最も早い日までの期間をいう。)を除く。)から工事の完成日(後片付け期間(契約図書に基づく工事目的物の施工が全て完了し、余剰資材等の撤去、現場の清掃等、工事の完成検査を受けるために必要な作業を行う期間をいう。)を除く。)までの期間をいう。ただし、次の期間は対象期間から除くものとする。
    - ア 年末年始6日間及び夏季休暇3日間
    - イ 工場製作のみが行われている期間
    - ウ 災害時の緊急対応その他受注者の責めによらず、休工又は現場作業を余儀なくされた期間
  - (5) 「発注者指定型」とは、週休2日適用工事として発注者が指定するものをいう。
  - (6) 「受注者希望型」とは、受注者が工事着手前に、発注者に対して週休2日適用工事として取り組む旨を申し出たものをいう。
- 2 週休2日は、次の(1)から(3)までに定める区分に応じ、各号に定めるところにより実施するものとする。
  - (1) 完全週休2日(土日)
    - 1 (1)アに定めるところにより実施するものとする。ただし、対象期間内のうち、日数が7日に満たない週においては、当該週の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことで実施できるものとする。
  - (2) 月単位の週休2日
    - 1 (1)イに定めるところにより実施するものとする。ただし、暦上の土曜日及び日曜日

の現場閉所等では4週8休に満たない月又は日数が28日に満たない月においては、当該月の対象期間内の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことにより実施できるものとする。

(3) 通期の週休2日

1 (1)ウに定めるところにより実施するものとする。

3 受注者は、受注した工事が発注者指定型の場合は、工事着手までに監督員に対し、実施する週休2日の区分について申し出るとともに、現場閉所（現場休息）計画表兼実績表（様式1）（以下「計画表」という。）を提出するものとする。

4 受注者は、受注した工事が受注者希望型の場合は、工事着手までに監督員に対し、週休2日実施の有無及び実施する週休2日の区分について申し出るとともに、実施する場合は計画表を提出するものとする。なお、工事着手前に週休2日を実施しない旨を申し出た場合は、工事着手後の週休2日を実施する旨の申出は受け付けないものとする。

5 受注者は、天候を理由として現場閉所等を行う場合のほか、次に掲げる場合は、監督員との協議により工事着手後であっても週休日を変更することができるものとする。

(1) 品質管理、安全管理等のため作業を継続して行う必要がある場合

(2) その他工程の都合上やむを得ない場合

6 受注者は、当該工事が週休2日適用工事である旨を標示板の見えやすい位置に記載して工事現場に設置しなければならない。この場合において、記載内容は、別記様式に定めるものを基本とするものとする。

7 受注者は、計画表に現場閉所等の状況を記入し、現場閉所等の状況が確認できる書類（工事日誌、出勤簿等をいう。）とともに毎月7日（7日が閉庁日の場合は翌開庁日）まで及び工事完成後速やかに、工事打合せ簿により監督員に提出し、確認を受けるものとする。

8 週休2日を理由とする工期延長については、認めないものとする。

9 受注者は、週休2日を実施できなくなった場合は、速やかにその旨及び理由を工事打合せ簿により監督員に報告するものとする。

10 発注者指定型の工事の経費の補正は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 土木工事

月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、完全週休2日（土日）を達成したと認めた場合は、完全週休2日（土日）の補正係数を適用して変更契約し、月単位の週休2日を達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。

(2) 港湾工事

月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、月単位の週休2日を達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。

(3) 農林工事（土地改良工事積算基準（土木工事）及び（施設機械）適用工事に限る。）

月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、完全週休2日（土日）を達成したと認めた場合は、完全週休2日（土日）の補正係数を適用して変更契約し、月単位の週休2日を達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。

(4) 農林工事（治山林道必携適用工事に限る。）

月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、月単位の週

休2日を達成できず、通期の週休2日を達成したと認めた場合は、通期の週休2日の補正係数を適用し、月単位の週休2日及び通期の週休2日のいずれも達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。

11 受注者希望型の工事の経費の補正は次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 土木工事

週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、達成した週休2日の区分に応じて完全週休2日(土日)(港湾工事を除く。)又は月単位の週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。

(2) 港湾工事

週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、月単位の週休2日を達成したと認めるとき、当該週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。

(3) 農林工事(土地改良工事積算基準(土木工事)及び(施設機械)適用工事に限る。)

週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、達成した週休2日の区分に応じて完全週休2日(土日)又は月単位の週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。

(4) 農林工事(治山林道必携適用工事に限る。)

週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、達成した週休2日の区分に応じて月単位の週休2日又は通期の週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。

12 土木工事(港湾工事を含む。)に係る経費の補正については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数、別表土木工事市場単価の補正係数(港湾工事を除く。)及び土木工事標準単価の補正係数の表に定める補正係数を用いるものとする。ただし、港湾工事(港湾土木請負工事積算基準を適用した工事)については、月単位の週休2日を達成した場合に限り、第2号に定める補正係数及び別表港湾工事市場単価の補正係数の表に定める補正係数により、経費の補正を行うものとする。

(1) 完全週休2日(土日)

ア 労務費	1.02
イ 共通仮設費	1.02
ウ 現場管理費	1.03

(2) 月単位の週休2日

ア 労務費	1.02
イ 共通仮設費	1.01(港湾工事を除く。)
ウ 共通仮設費	1.02(港湾工事に限る。)
エ 現場管理費	1.02(港湾工事を除く。)
オ 現場管理費	1.03(港湾工事に限る。)

13 12(1)ア及び12(2)アに規定する労務費に係る補正対象は、公共工事設計労務単価、電気通信技術者、電気通信技術員、機械設備据付工及び港湾請負工事積算基準に係る標準賃金(船舶製作工を除く。)とする。

14 農林工事に係る経費の補正については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数、別表農林工事(土地改良工事積算基準適用工事)市場単価の補正係数及び農林工事(治山林道必携適用工事)市場単価の補正係数の表に定める市場単価並びに別表農林工事(土地改良工事積算基準適用工事)標準単価の補正係数及び農林工

事（治山林道必携適用工事）標準単価の補正係数の表に定める補正係数を用いるものとする。

(1) 土地改良工事積算基準（土木工事）及び（施設機械）適用工事

ア 完全週休2日（土日）

(ア) 労務費	1.02
(イ) 共通仮設費	1.05
(ウ) 現場管理費	1.06

イ 月単位の週休2日

(ア) 労務費	1.02
(イ) 共通仮設費	1.04
(ウ) 現場管理費	1.05

(2) 治山林道必携適用工事

ア 月単位の週休2日

(ア) 労務費	1.04
(イ) 機械経費（賃料）	1.02
(ウ) 共通仮設費	1.03
(エ) 現場管理費	1.05

イ 通期の週休2日

(ア) 労務費	1.02
(イ) 機械経費（賃料）	1.02
(ウ) 共通仮設費	1.02
(エ) 現場管理費	1.03

15 14(1)ア(ア)及び14(1)イ(ア)並びに14(2)ア(ア)及び14(2)イ(ア)に規定する労務費に係る補正対象は、公共工事設計労務単価、電気通信技術者、電気通信技術員、機械設備据付工及び港湾請負工事積算基準に係る標準賃金（船舶製作工を除く。）とする。

16 土木工事及び農林工事（土地改良工事積算基準（土木工事）及び（施設機械）適用工事に限る。）については、完全週休2日（土日）又は月単位の週休2日を達成したとき、港湾工事については、月単位の週休2日を達成したとき、農林工事（治山林道必携適用工事に限る。）については、月単位の週休2日又は通期の週休2日を達成したときに工事成績評定表の「工程管理」及び「創意工夫」において評価するものとする。

17 週休2日を達成できなかった場合であっても、工事成績評定は減点しない。

18 計画表その他の提出資料に虚偽の記載等を行った場合は、指名除外措置の対象となる場合がある。

## 別表

土木工事市場単価の補正係数（港湾工事を除く。）

名称	区分	補正係数	
		月単位 の週休2日	完全 週休2日 (土日)
鉄筋工		1.02	1.02
ガス圧接工		1.01	1.01
インターロッキングブロック工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.02	1.02
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（落石防護柵）		1.01	1.01
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.01
道路標識設置工	設置	1.00	1.00
	撤去・移設	1.01	1.01
道路付属物設置工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
法面工		1.01	1.01
吹付砕工		1.01	1.01
鉄筋挿入工（ロックボルト工）		1.01	1.01
道路植栽工		1.02	1.02
公園植栽工		1.02	1.02
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.01	1.01
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.02	1.02
橋面防水工		1.01	1.01
薄層カラー舗装工		1.00	1.00
グルーピング工		1.00	1.00
軟弱地盤処理工		1.01	1.01
コンクリート表面処理工 （ウォータージェット工）		1.01	1.01
硬質塩化ビニル管設置工		1.01	1.01
リブ付硬質塩化ビニル管設置工		1.01	1.01
砂基礎工	人力施工	1.02	1.02
	機械施工	1.02	1.02
碎石基礎工	人力施工	1.02	1.02
	機械施工	1.02	1.02
組立マンホール設置工		1.01	1.01
小型マンホール工		1.00	1.00
取付管及びます設置工	ます設置工	1.00	1.00
	取付管布設及び支管取付工	1.01	1.01

港湾工事市場単価の補正係数

名称	補正係数
	月単位 の週休2日
底面工	1.01
マット工（アスファルトマット設置・ゴム系マット設置）	1.00
支保工	1.02
足場工	1.01
鉄筋工	1.02
吊鉄筋工	1.02
型枠工	1.02
コンクリート打設工（ポンプ車打設）	1.02
コンクリート打設工（ポンプ車打設以外）	1.02
止水板工	1.02
上蓋工	1.02
伸縮目地工	1.01
係船柱取付	1.02
防舷材取付	1.02
車止・縁金物取付	1.02
係船柱撤去	1.02
防舷材撤去	1.02
車止撤去	1.02
電気防食取付	1.02
防砂目地板取付工（陸上施工）	1.02
防砂目地板取付工（水中施工）	1.02
吸出し防止工（陸上施工・海上施工）	1.02
港湾構造物塗装工（係船柱・車止・縁金物）	1.01
ペトロラタム被覆	1.02
現場鋼材溶接・切断工（陸上施工・海上施工）	1.02
現場鋼材溶接・切断工（水中施工）	1.02
かき落とし工	1.02
汚濁防止膜設置・撤去・移設	1.01
汚濁防止枠設置・撤去	1.01
灯浮標設置・撤去	1.01
汚濁防止膜保守管理（海上目視点検作業船あり・水中目視点検）	1.00
汚濁防止膜保守管理（海上目視点検作業船なし）	1.02
異形ブロック製作型枠工	1.02
異形ブロック製作コンクリート打設工	1.02
異形ブロック製作給熱養生	1.01

農林工事（土地改良工事積算基準適用工事）市場単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		月単位の週休2日	完全週休2日(土日)
鉄筋工（太径鉄筋を含む）		1.02	1.02
鉄筋工（ガス圧接）		1.01	1.01
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.02	1.02
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（落石防護柵）		1.01	1.01
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.01
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
道路標識設置工	設置	1.00	1.00
	撤去・移設	1.01	1.01
道路付属物設置工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
法面工		1.01	1.01
吹付砕工		1.01	1.01
軟弱地盤処理工		1.01	1.01
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.01	1.01
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.02	1.02
橋面防水工		1.01	1.01

農林工事（治山林道必携適用工事）市場単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		通期の週休2日	月単位の週休2日
鉄筋工（太径鉄筋を含む）		1.02	1.04
鉄筋工（ガス圧接）		1.02	1.03
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.01
	撤去	1.02	1.04
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.02	1.04
	撤去	1.02	1.04
防護柵設置工（落石防止柵）		1.01	1.01
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.02
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.01
	撤去	1.02	1.04
道路標識設置工	設置	1.00	1.01
	撤去・移設	1.02	1.03
道路付属物設置工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.04
法面工		1.01	1.02
吹付砕工		1.01	1.03
軟弱地盤処理工		1.01	1.02
鉄筋挿入工（ロックボルト）		1.02	1.03

土木工事標準単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		月単位の週休2日	完全週休2日(土日)
区画線工		1.02	1.02
高視認性区画線工		1.02	1.02
橋梁塗装工		1.01	1.01
構造物とりこわし工	機械	1.01	1.01
	人力	1.02	1.02
コンクリートブロック積工		1.02	1.02
排水構造物工		1.02	1.02

農林工事（土地改良工事積算基準適用工事）標準単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		月単位の週休2日	完全週休2日(土日)
区画線工		1.02	1.02
排水構造物工		1.02	1.02
コンクリートブロック積工		1.02	1.02
構造物とりこわし工	機械	1.01	1.01
	人力	1.02	1.02
鋼橋塗装工		1.01	1.01

農林工事（治山林道必携適用工事）標準単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		通期の週休2日	月単位の週休2日
区画線工		1.02	1.04
排水構造物工		1.02	1.04
コンクリートブロック積工		1.02	1.04
構造物とりこわし工	機械	1.02	1.03
	人力	1.02	1.04

(1)

<b>ご協力をお願いします</b>	
<b>週休2日適用工事</b>	
〇〇〇〇〇を なおしています	
〇〇年〇〇月まで	
時間帯〇:〇〇~〇:〇〇	
<b>〇〇〇〇工事</b>	
発注者	福山市 〇〇〇〇課 電話 000-000-0000
施工者	〇〇〇〇建設株式会社 電話 000-000-0000

(2)

週休2日適用工事	
この工事は、建設産業の労働環境を改善するため、週休2日の確保に取り組む工事です。	
発注者	: 福山市〇〇〇〇〇〇課
受注者	: 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(A3サイズ以上)

# 総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日  諸経費体系	0 70 福山市 00-08.02.01(0)  1 公共(一般)	凡例 Co … コンクリート      As … アスファルト DT … ダンプトラック      BH … バックハウ CC … クローラクレーン      TC … トラッククレーン RTC… ラフテレーンクレーン
	当世代 41 橋梁保全工事 02 市街地(DID補正) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	前世代
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G032404 レベル3
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合	1	式			Y1G03240402 レベル4
断面修復工	1	式			S1020035 00 単第0 -0001 表
左官工法 【材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】	1	式			Y1G032405 レベル3
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積1.42m3	1	式			Y1G03240501 レベル4
	1	式			S1020041 00 単第0 -0002 表

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
表面被覆工					Y1G032406 レベル3
	1	式			
表面含浸工					Y1G03240601 レベル4
	1	式			
簡易清掃					F0000000031 00
	144	m2			
含浸材塗布					F0000000032 00
	144	m2			
表面含浸材 ケイ酸リチウム系含浸材シラン混合型					F0000000033 00
	22	kg			
水切設置工					Y1G032401 レベル3
	1	式			
水切設置工					Y1G03240101 レベル4
	1	式			
水切り設置工 橋梁床版用後付け型水切り 1橋当り20m以上					V0000000001 00
	24	m			単第0 -0003 表
支承塗装塗替工					Y1G032501 レベル3
	1	式			

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
支承塗替	1	式			Y1G03250101 レベル4
塗装塗替 素地調整(2種ケレン) (RC-系塗装)	1	式			V0000000002 00 単第0 -0004 表
伸縮継手工	1	式			Y1G032101 レベル3
遊間部防水工 【ジョイント規格,伸縮装置断面積】 【工種,取付部位,工法区分,補修形式】	1	式			Y1G03210102 レベル4
遊間部防水工 常温アスファルト乳剤型	1	橋			V0000000003 00 単第0 -0005 表
コンクリート舗装表面処理工	1	式			Y1G032501 レベル3
コンクリート舗装表面処理	1	式			Y1G03250101 レベル4
コンクリート舗装表面処理 浸透防水型薄層表面処理	1	橋			V0000000004 00 単第0 -0006 表
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
構造物取壊し工	1	式			Y1G032706 レベル3
コンクリート取壊し運搬処理 【構造物区分,工法区分】	1	式			Y1G03270614 レベル4
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間有り 運搬距離14.4km以下(10.9km超)	1	m3			SPK25040155 00 単第0 -0007 表
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート塊受入費 再資源化施設搬入	3	t			T9005 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
仮設工	1	式			Y1G032801 レベル3
仮設工 【施工幅員】	1	式			Y1G03280101 レベル4
仮設工	1	式			V000000200 00 単第0 -0008 表

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など 【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる	数量	単位	単価	金額	備考
建設発生土受入費 再資源化施設搬入	3	m3			#0041 T9003 00
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員	1	式			Y1G03282101 レベル4
交通誘導警備員B	20	人			R0369 00
** 直接工事費 ** #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
技術管理費					Z0006
技術管理費	1	式			YZZ06 レベル2
技術管理費	1	式			YZZ06001 レベル3

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
調査費					YZZ06001006レベル4
重金属分析前処理費 鉛 分析対象：塗膜くず	1	式			F0000000101 00
鉛含有量試験 JIS K 5674附属書A準用 分析対象：塗膜くず	1	検体			F0000000102 00
重金属分析前処理費 クロム 分析対象：塗膜くず	1	検体			F0000000105 00
総クロム含有量試験 JIS K 5674附属書B準用 分析対象：塗膜くず	1	検体			F0000000106 00
試料調整費 PCB 分析対象：塗膜くず	1	検体			F0000000103 00
PCB含有量試験	1	検体			F0000000104 00
石綿定性分析 JIS A 1481-1 動力工具を用いての採取 分析対象：塗膜くず	1	検体			F0000000111 00
共通仮設費率分					Z0019

# 本工事費 内訳表

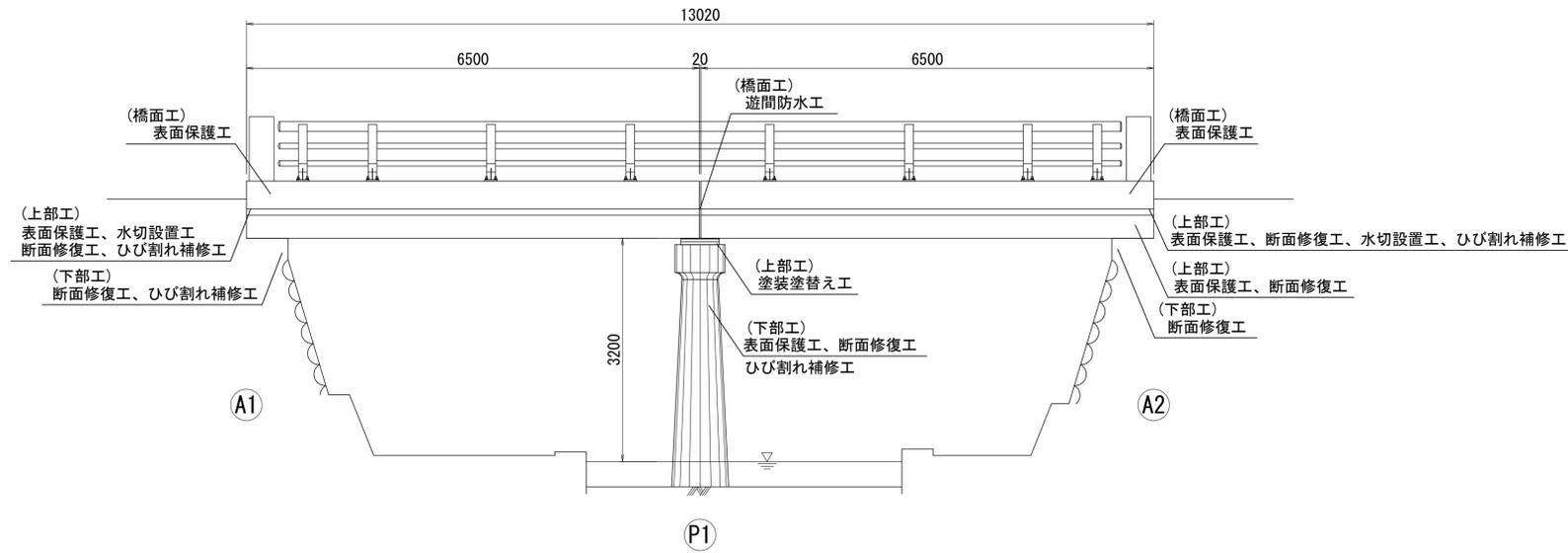
費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 工事原価 **					
一般管理费率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
** 工事価格 **					



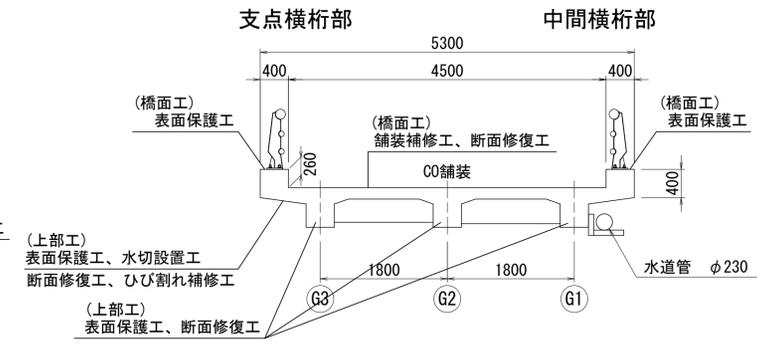


# 驛家橋 補修一般図 S=1:50

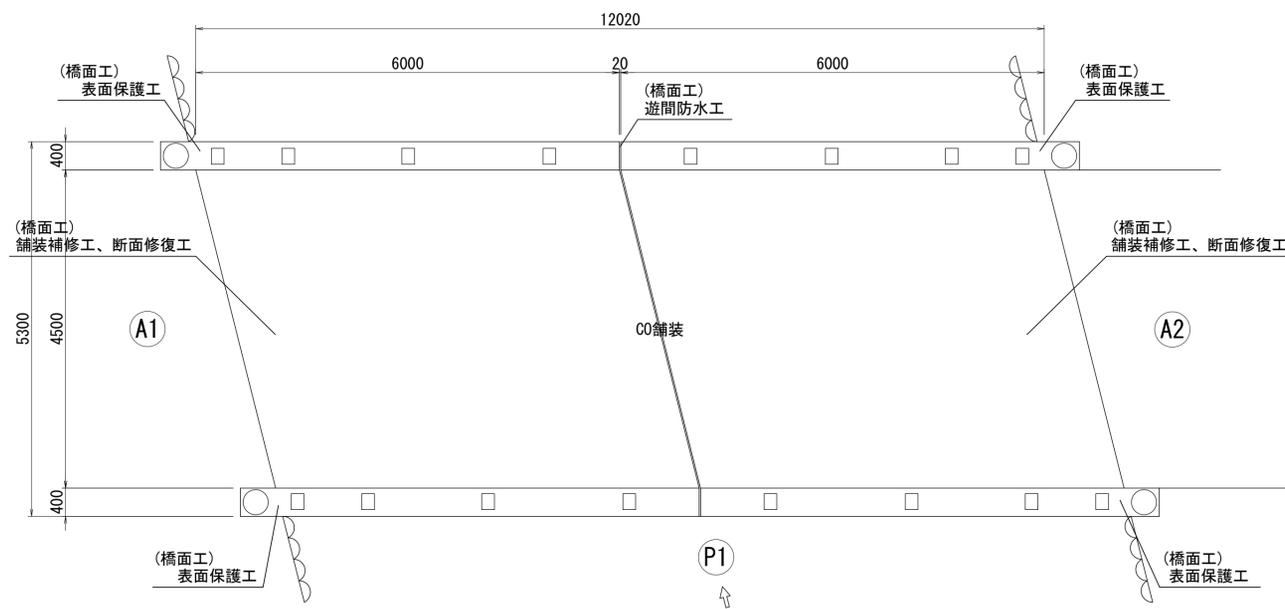
## 縦断面図



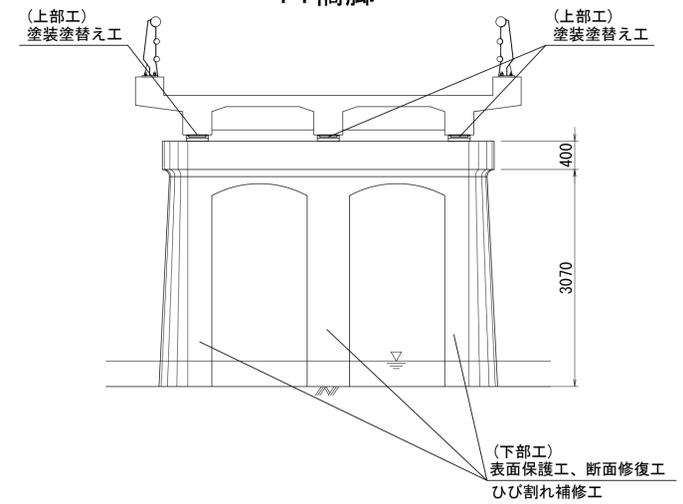
## 横断面図



## 平面図 (橋面)

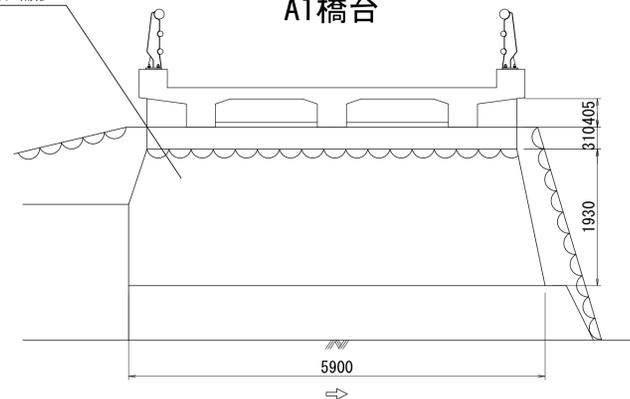


## P1橋脚

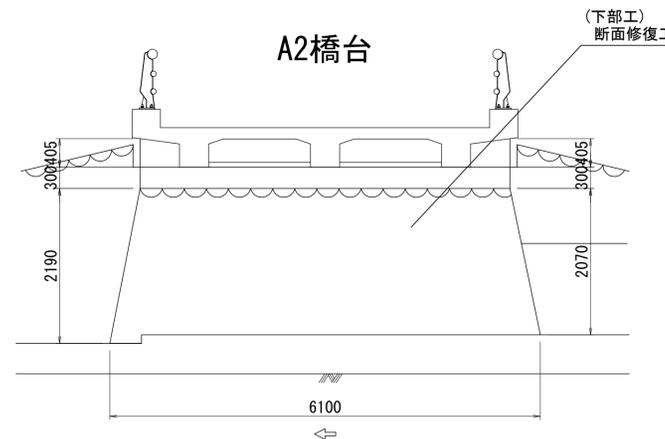


## (下部工) 断面修復工、ひび割れ補修工

## A1橋台



## A2橋台

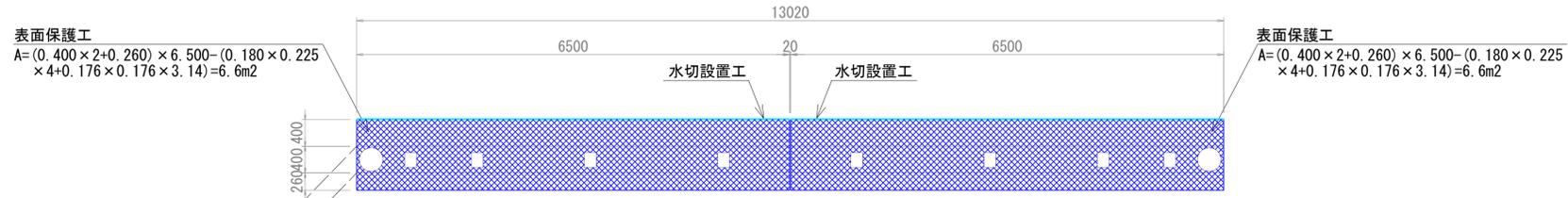


工事名	橋梁修繕工事 (驛家橋)
図面名	補修一般図
作成年月日	2026年2月
縮尺	図示 図面番号 2 / 9
工事箇所	福山市駅家町地内
	福山市

# 驛家橋 上部工補修図(1) S=1:50

## 床版・地覆

### 左側地覆展開図



表面保護工数量算出計算式

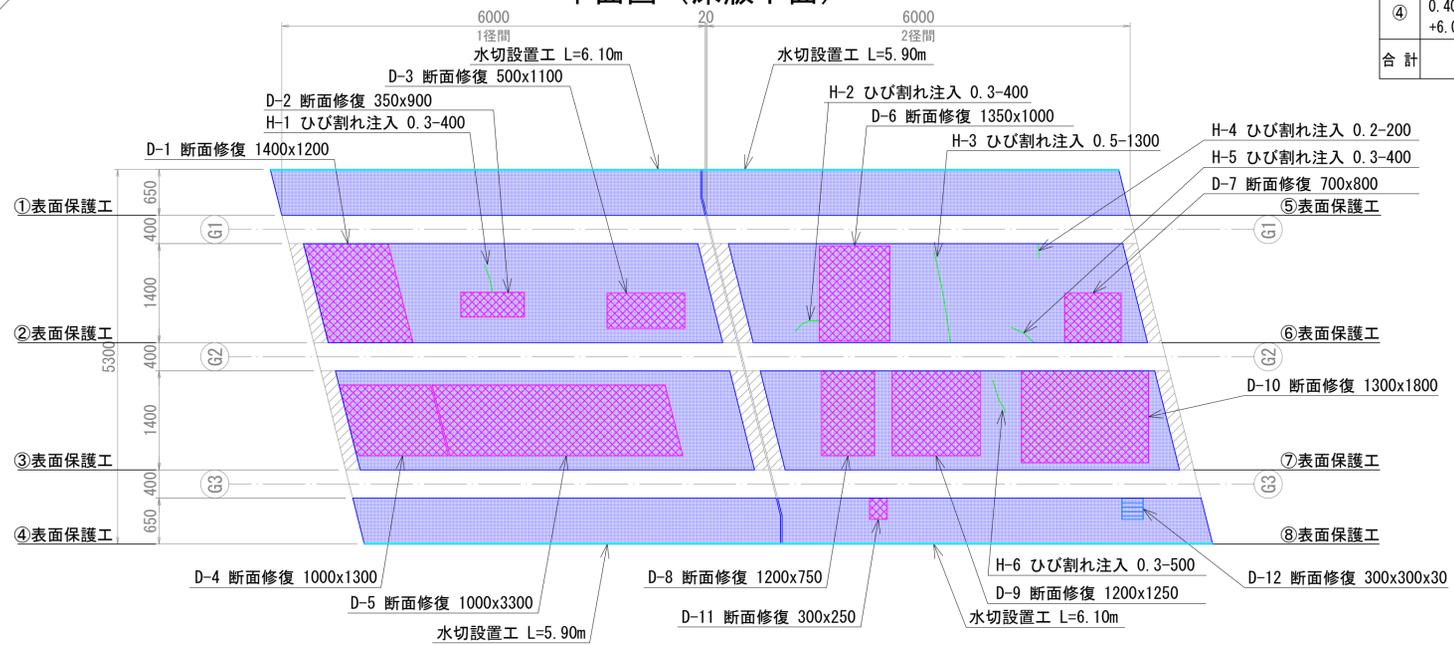
【1径間】

番号	計算式	面積
①	$(0.252 + 0.404) \times 6.000 + 0.101 \times 0.404 \times 1/2$	4.0m <sup>2</sup>
②	$(0.212 \times 2 + 1.000) \times 5.588$	8.0m <sup>2</sup>
③	$(0.212 \times 2 + 1.000) \times 5.588$	8.0m <sup>2</sup>
④	$0.404 \times 5.899 + 0.101 \times 0.404 \times 1/2 + 6.000 \times 0.252$	3.9m <sup>2</sup>
合計		23.9m <sup>2</sup>

【2径間】

番号	計算式	面積
⑤	$0.404 \times 5.899 + 0.101 \times 0.404 \times 1/2 + 6.000 \times 0.252$	3.9m <sup>2</sup>
⑥	$(0.212 \times 2 + 1.000) \times 5.588$	8.0m <sup>2</sup>
⑦	$(0.212 \times 2 + 1.000) \times 5.588$	8.0m <sup>2</sup>
⑧	$(0.252 + 0.404) \times 6.000 + 0.101 \times 0.404 \times 1/2$	4.0m <sup>2</sup>
合計		23.9m <sup>2</sup>

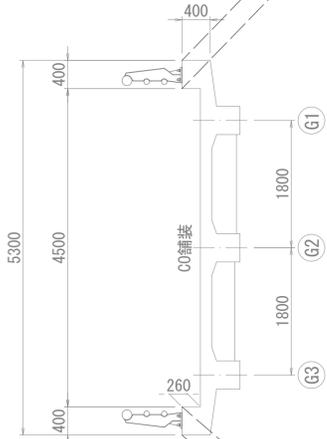
### 平面図 (床版下面)



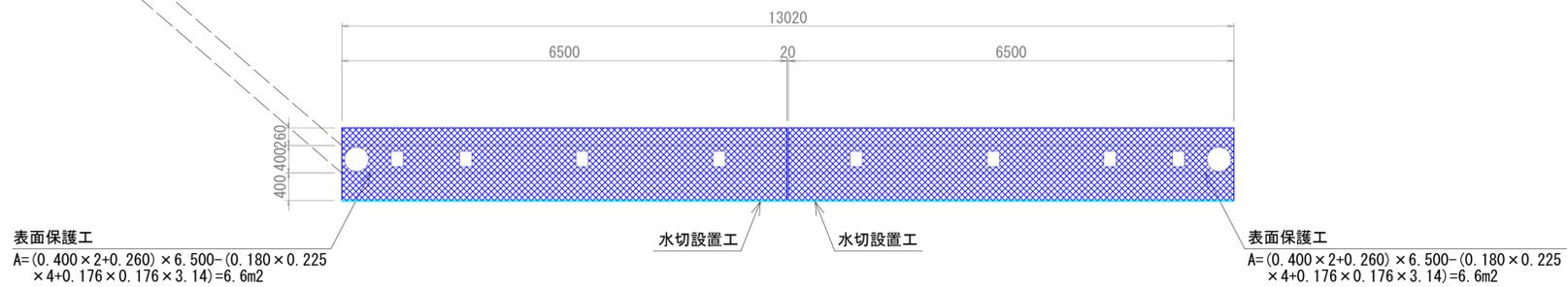
### 横断面図

中間横桁部

支点横桁部



### 右側地覆展開図



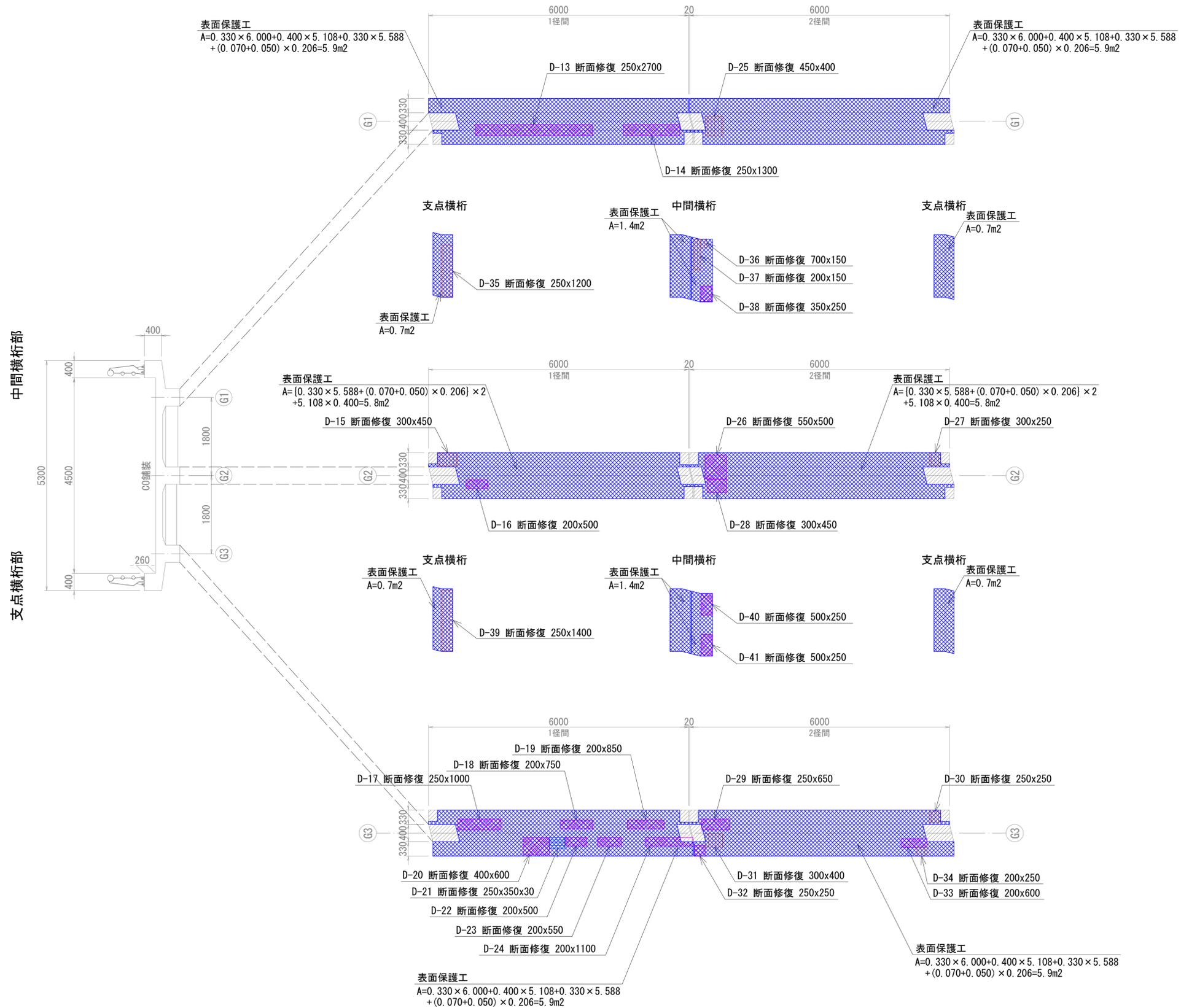
凡 例	
記号	損傷種類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)
	ひび割れ (W=0.2mm~1.0mm未満)
	ひび割れ (W=1.0mm~5.0mm未満)
	ひび割れ (W=5.0mm以上)
	析出物を伴うひび割れ
	うき
	剥離
	鉄筋露出
	欠損
	摩耗・浸食
	豆板
	析出物
	漏水・滞水
	腐食
	防食機能の劣化
	その他

工事名	橋梁修繕工事 (驛家橋)
図面名	上部工補修図(1)
作成年月日	2026年2月
縮尺	図示 図面番号 3 / 9
工事箇所	福山市驛家町地内
	福山市

# 驛家橋 上部工補修図(2) S=1:50

## 主桁・横桁

### 横断面図



凡 例	
記号	損傷種類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)
	ひび割れ (W=0.2mm~1.0mm未満)
	ひび割れ (W=1.0mm~5.0mm未満)
	ひび割れ (W=5.0mm以上)
	析出物を伴うひび割れ
	うき
	剥離
	鉄筋露出
	欠損
	摩耗・浸食
	豆板
	析出物
	漏水・滞水
	腐食
	防食機能の劣化
	その他

工事名	橋梁修繕工事(驛家橋)		
図面名	上部工補修図(2)		
作成年月日	2026年2月		
縮尺	図示	図面番号	4 / 9
工事箇所	福山市駅家町地内		
	福山市		

驛家橋 下部工補修図(1) S=1:50

A1橋台・A2橋台

A1橋台

平面図(沓座面)

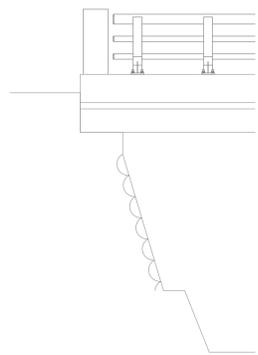


A2橋台

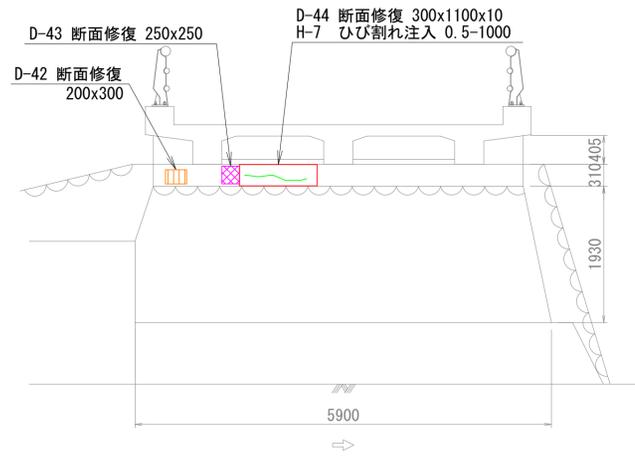
平面図(沓座面)



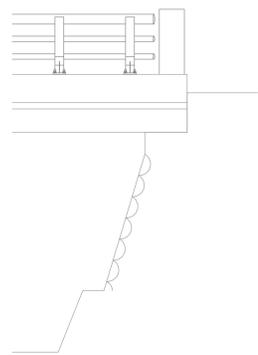
側面図(上流側)



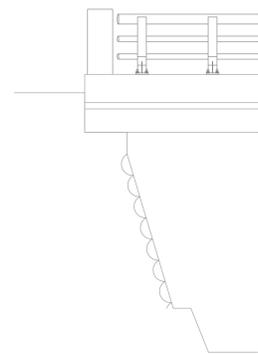
正面図



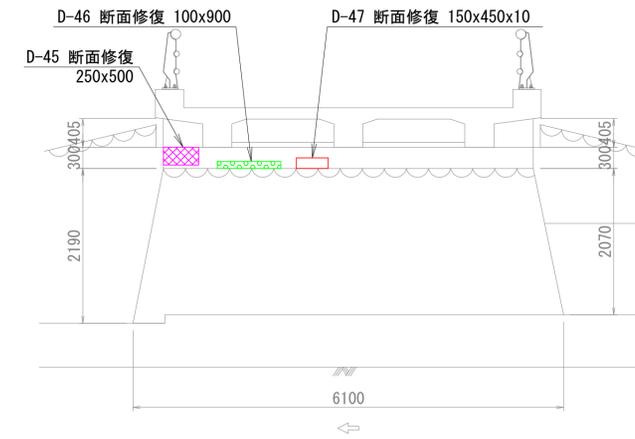
側面図(下流側)



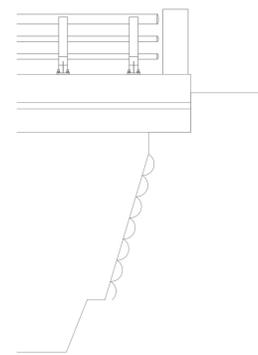
側面図(下流側)



正面図



側面図(上流側)



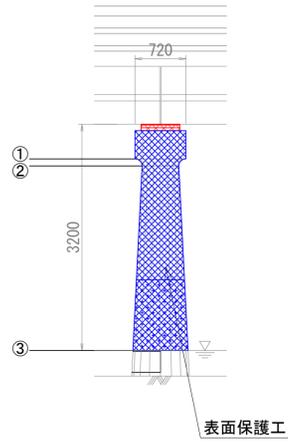
凡 例			
記号	損傷種類	記号	損傷種類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)		摩耗・浸食
	ひび割れ (W=0.2mm~1.0mm未満)		豆板
	ひび割れ (W=1.0mm~5.0mm未満)		析出物
	ひび割れ (W=5.0mm以上)		漏水・滞水
	析出物を伴うひび割れ		腐食
	うき		防食機能の劣化
	剥離		その他
	鉄筋露出		
	欠損		

工事名	橋梁修繕工事(驛家橋)
図面名	下部工補修図(1)
作成年月日	2026年2月
縮尺	図示 図面番号 5 / 9
工事箇所	福山市駅家町地内
	福山市

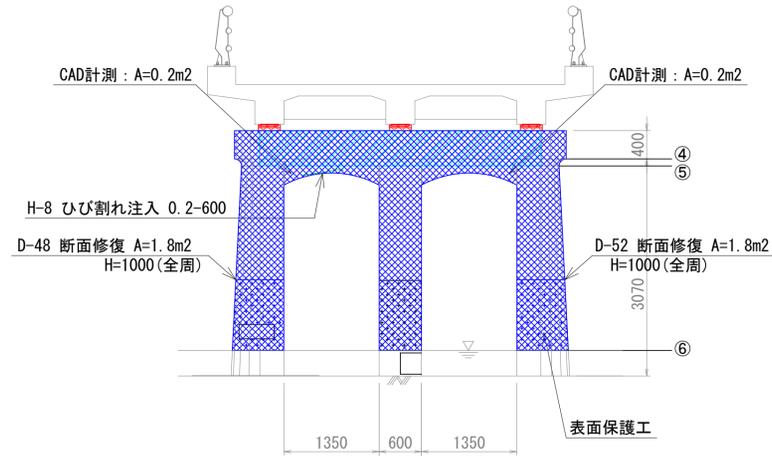
# 驛家橋 下部工補修図(2) S=1:50

## P1橋脚

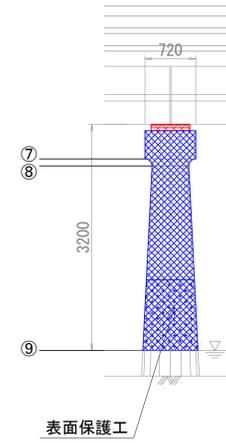
側面図 (下流側)



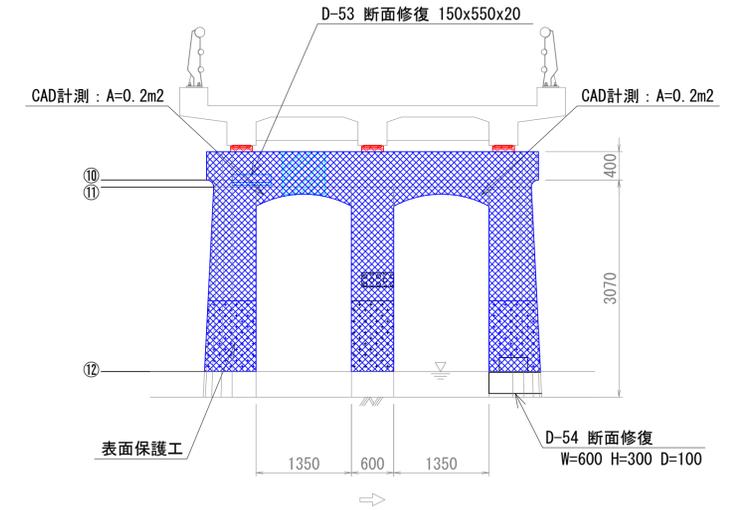
正面図 (起点側)



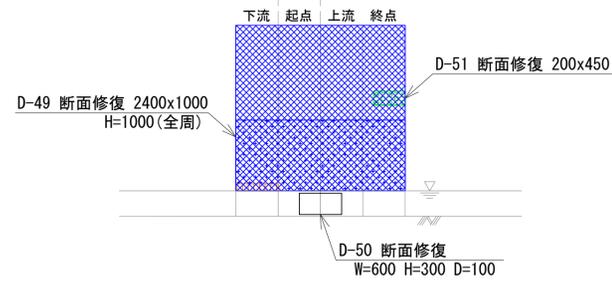
側面図 (上流側)



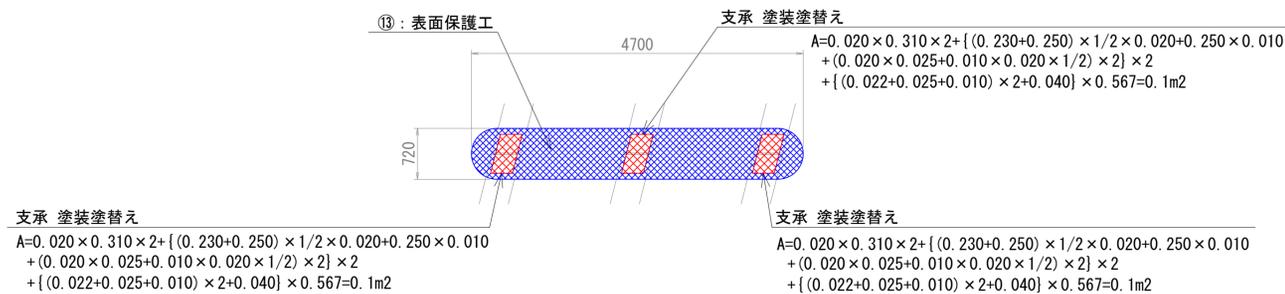
正面図 (終点側)



柱展開図 (中央部)



平面図 (沓座面)



表面保護工数量算出計算式

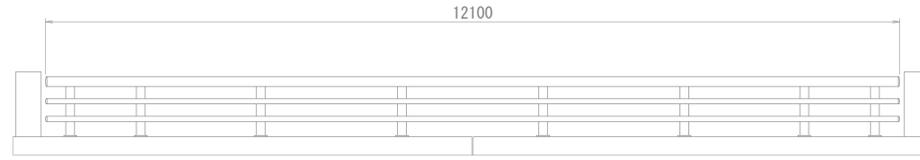
番号	計算式	面積
①	$0.360 \times 2 \times 3.14 \times 0.400 \times 1/2$	0.5m <sup>2</sup>
②	$(0.565 \times 2 + 0.408 \times 2) \times 1/2 \times 0.157$	0.2m <sup>2</sup>
③	$(1.131 + 0.817) \times 2.613 \times 1/2$	2.5m <sup>2</sup>
④	$3.980 \times 0.400$	1.6m <sup>2</sup>
⑤	$3.980 \times 0.157$	0.6m <sup>2</sup>
⑥	$(0.340 \times 2 + 0.600) \times 2.610 + 0.2 \times 2 + \{(0.547 + 0.781) \times 2.343 \times 1/2 + 0.600 \times 2.340\} \times 2$	9.7m <sup>2</sup>
⑦	$0.360 \times 2 \times 3.14 \times 0.400 \times 1/2$	0.5m <sup>2</sup>
⑧	$(0.565 \times 2 + 0.408 \times 2) \times 1/2 \times 0.157$	0.2m <sup>2</sup>
⑨	$(1.131 + 0.817) \times 2.613 \times 1/2$	2.5m <sup>2</sup>
⑩	$3.980 \times 0.400$	1.6m <sup>2</sup>
⑪	$3.980 \times 0.157$	0.6m <sup>2</sup>
⑫	$(0.340 \times 2 + 0.600) \times 2.610 + 0.2 \times 2 + (1.406 + 1.406) \times 0.547 \times 1/2 \times 2$	5.3m <sup>2</sup>
⑬	$0.360 \times 0.360 \times 3.14 + 0.720 \times 3.980 - 0.310 \times 0.567 \times 3$	2.7m <sup>2</sup>
合計		28.5m <sup>2</sup>

凡例	
記号	損傷種類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)
	ひび割れ (W=0.2mm~1.0mm未満)
	ひび割れ (W=1.0mm~5.0mm未満)
	ひび割れ (W=5.0mm以上)
	析出物を伴うひび割れ
	うき
	剥離
	鉄筋露出
	欠損
	摩耗・浸食
	豆板
	析出物
	漏水・滞水
	腐食
	防食機能の劣化
	その他

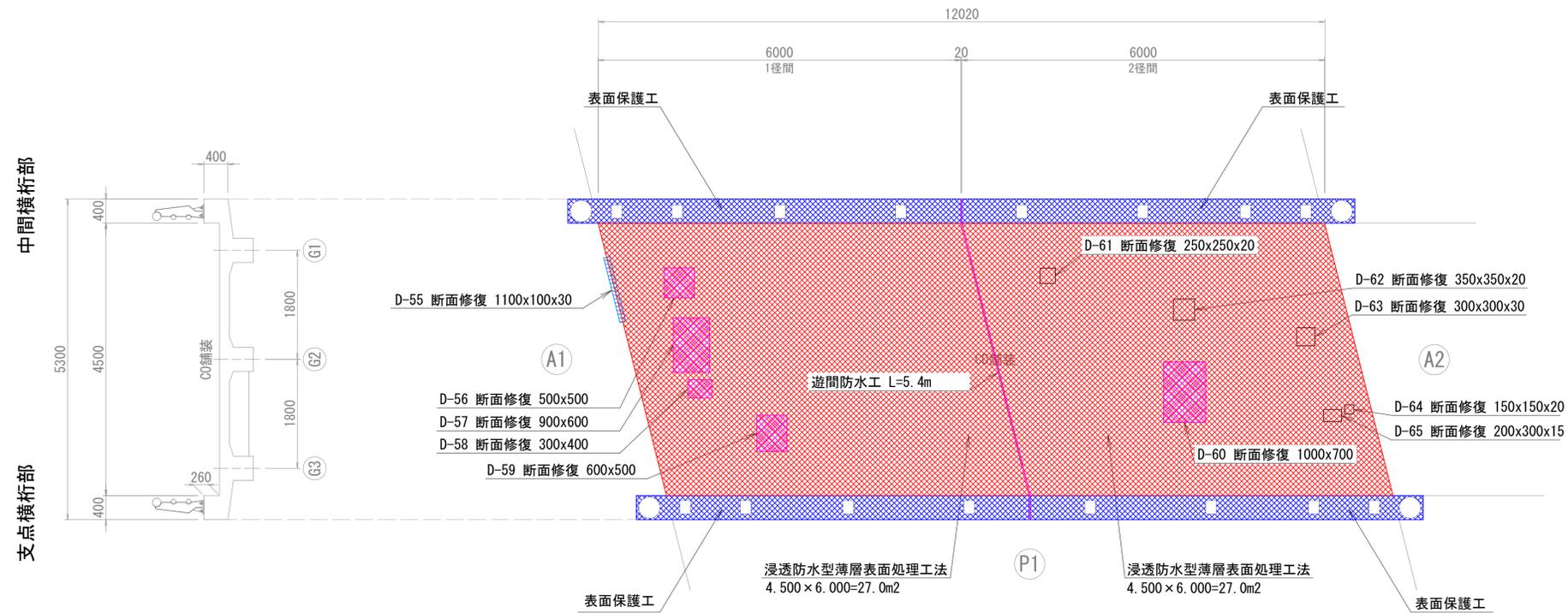
工事名	橋梁修繕工事 (驛家橋)
図面名	下部工補修図(2)
作成年月日	2026年2月
縮尺	図示 図面番号 6 / 9
工事箇所	福山市駅家町地内
	福山市

驛家橋 路面補修図 S=1:50

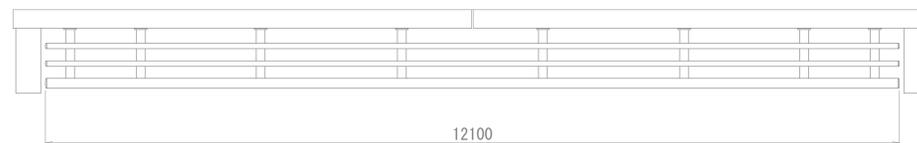
左側車両用防護柵正面図



平面図（橋面）



右側車両用防護柵正面図



凡 例	
記号	損傷種類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)
	ひび割れ (W=0.2mm~1.0mm未満)
	ひび割れ (W=1.0mm~5.0mm未満)
	ひび割れ (W=5.0mm以上)
	析出物を伴うひび割れ
	うき
	剥離
	鉄筋露出
	欠損
	摩耗・浸食
	豆板
	析出物
	漏水・滞水
	腐食
	防食機能の劣化
	その他

工事名	橋梁修繕工事（驛家橋）		
図面名	路面補修図		
作成年月日	2026年2月		
縮尺	図示	図面番号	7 / 9
工事箇所	福山市駅家町地内		
	福山市		

横断面図

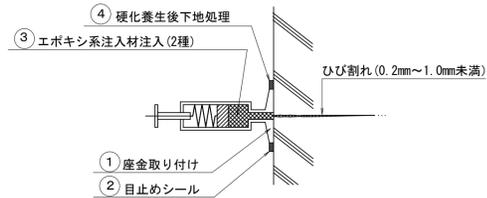
中間横桁部

支点横桁部

# 驛家橋 補修要領参考図(1)

## ひび割れ補修工

### ひびわれ注入工 (注入材 エポキシ2種)



- 注) 1. ひび割れ注入工はひび割れ幅0.2mm~1.0mm未満のひび割れに対して行うこと。  
2. ひび割れ充填工は、ひび割れ幅1.0mm以上のひび割れに対して行うこと。  
3. 施工箇所や延長については、施工時においてコンクリート表面を清掃したうえで再調査を行い決定すること。

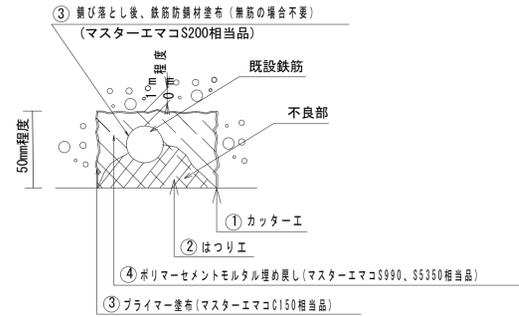
### ひび割れ注入材料品質規格

日本コンクリート工学会「コンクリートのひび割れ調査・補修補強設計指針2013」

項目	単位	エポキシ樹脂注入材2種
ひび割れ幅	mm	0.2~5.0mm
粘度	mPa·S	4±1
可使用時間	分	30以上
硬化時間	時間	16以内
硬化収縮	%	0.1以下
伸び率	%	50以上
モルタル付着強さ(乾燥面)	N/mm2	6以上
付着力耐久性保持率	%	60以上

## 断面修復工

### 左官工法



- 注) 1. 断面修復工は、欠損、うき、鉄筋露出及びジャンカが生じている箇所に対して行うこととし、施工箇所や範囲については、施工時において再調査のうえ決定すること。  
2. 鉄筋の裏側まで十分にはつり出し、鉄筋の錆び落とし、清掃及び防錆材の塗布を行ったのちに、断面を修復すること。  
3. 断面修復部のかぶり厚は、10mm以上かつ鉄筋径以上確保すること。  
4. 鋼材の断面欠損が著しい場合には、新たに添え筋を追加すること。

### 断面修復材の品質規格

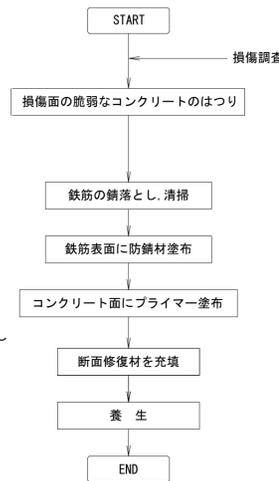
試験項目	試験体の履歴条件	基準値	試験方法
硬化時間	-	断面修復材の固化時間は1時間以上であること	JIS A1147
断面修復材の外観(塗装無し)	温冷繰り返し試験後	断面修復材は均一で、われはがれ、ふくれのないこと	JIS A6909
硬化収縮性	-	断面修復材の硬化収縮率は0.05%以下であること 硬化に伴う発熱により反りかえりが無いこと	JIS A1129-3
熱膨張性	硬化収縮試験後	断面修復材の熱膨張係数は $2.0 \times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ 以下であること	JIS K6911
コンクリートとの付着性	湿潤時 耐アルカリ性試験後 温冷繰り返し試験後	コンクリートと断面修復材との付着強度は、1.5N/mm <sup>2</sup> 以上であること	JIS A6909
塗装塗膜との付着性	温冷繰り返し試験後	塗膜と断面修復材との付着強度は、1.0N/mm <sup>2</sup> 以上であること	JIS A1108
圧縮強度	-	設計基準強度以上であること	JIS A1108
流動性*	-	使用する材料の規格値以内	JSDC-F541-2010

\* 流動性は、注入工法で使用する材料に適用する(J14漏斗落下時間)。

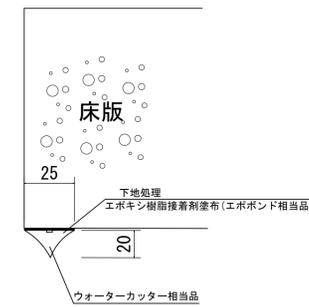
### 鉄筋防錆材の品質規格

試験項目	試験項目	基準値
防錆性	処理部	防錆率50%以上
	未処理部	防錆率-10%以上
鉄筋との付着性	鉄筋に対する付着強さ	7.8N/mm <sup>2</sup> 以上
コンクリートとの付着性	耐アルカリ性	塗膜に異常が認められないこと

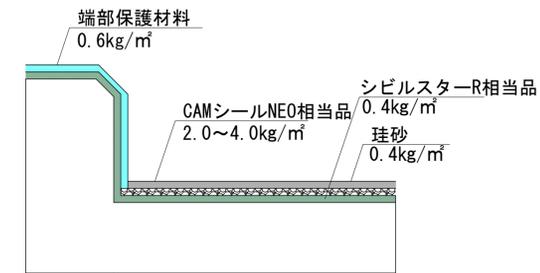
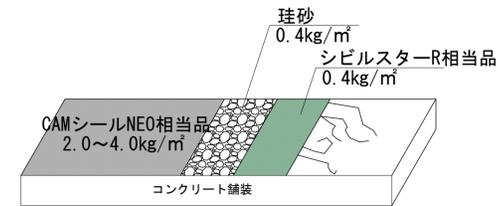
### 施工フロー



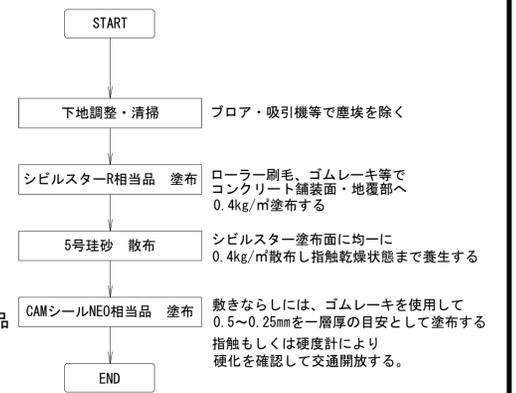
## 水切工 (橋梁床版用後付け型水切り)



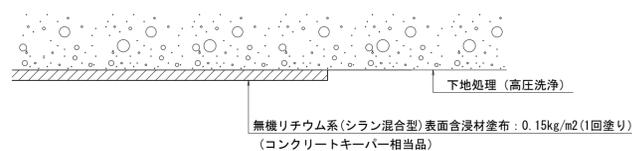
## 浸透防水型薄層表面処理工法 (CAMシールNEOプラス相当品)



### 施工フロー

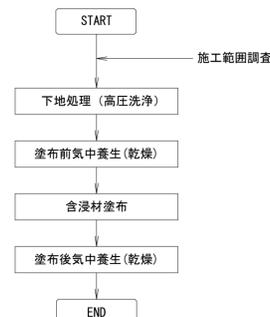


## 表面保護工 (無機リチウム系(シラン混合型)表面含浸材塗布工) (コンクリートキーパー相当品)

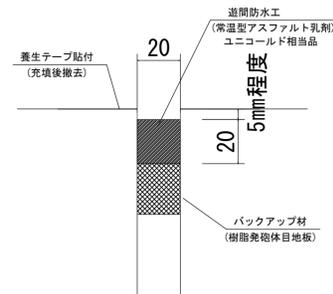


- 注) 1. 施工範囲については、施工時において再調査のうえ決定すること。  
2. コンクリート表面の汚れ及び油分を十分取り除き塗布すること。  
3. ひび割れ注入、断面修復後に施工すること。  
4. 施工面は乾燥面とする。

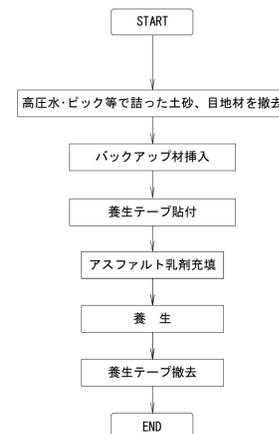
### 施工フロー



## 遊間防水工



### 施工フロー

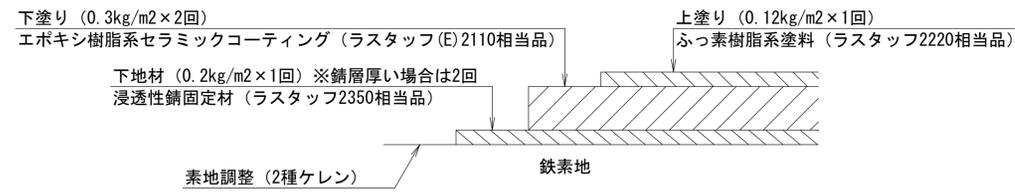


工事名	橋梁修繕工事(驛家橋)
図面名	補修要領参考図(1)
作成年月日	2026年2月
縮尺	図示 図面番号 8 / 9
工事箇所	福山市駅前町地内
	福山市

## 驛家橋 補修要領参考図(2)

### 支承防錆塗装工 (ラスタップ2100シリーズ相当品)

- ・狭隘部等ケレン困難箇所において錆完全除去が実現困難な場合
- ・横断歩道橋の蹴上げ部・ササラ部等環境が厳しい箇所



注)

#### 下塗り材 基本物性

項目	試験結果
引張接着強さ	23.3N/mm <sup>2</sup>
耐摩耗性(磨耗輪法)	70.9mg
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし

1. 施工前に必ず現地寸法を確認し、塗装範囲及び数量調査を協議のうえ施工すること。
2. 図中詳細寸法は現地計測のうえ決定すること。
3. 施工時の交通規制は、可能な限り供用可能とすること。
4. 素地調整については2種ケレン以上とし、旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させること。
5. 素地調整後から下地材までの時間は4時間以内・速やかに行うこと。
6. 下地材施工前に塗布面の水分・油分汚れはあらかじめ十分に除去すること。
7. 使用する塗装材は、上述基本物性の塗装材を使用し、材料の取扱い注意事項に留意すること。

#### 標準施工仕様

施工工程	使用材料	標準使用量×回数	養生時間
1 素地調整	2種ケレン	旧塗膜・さび除去、脱脂、清掃	4時間以内
2 下地材	浸透性錆固定材	0.2kg/m <sup>2</sup> ×1回 (—μm)	4時間以内
3 下塗り	エポキシ樹脂系セラミックコーティング	0.3kg/m <sup>2</sup> ×2回 (100μm×2)	4~24時間以内
4 上塗り	ふっ素樹脂系塗料	0.12kg/m <sup>2</sup> ×1回 (30μm)	

工事名	橋梁修繕工事(驛家橋)		
図面名	補修要領参考図(2)		
作成年月日	2026年2月		
縮尺	図示	図面番号	9 / 9
工事箇所	福山市駅家町地内		
	福山市		

# 参 考 图 书

# 施工単価表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)  
補修延べ延長25m未満の場合

S1020035

単第0 -0001 表

1 1 構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.500	人			
特殊作業員	2.400	人			
普通作業員	1.800	人			
注入材 エポキシ樹脂系2種	0.120	kg			
シール材 エポキシ樹脂系パテ状	0.671	kg			
低圧注入器具	19.000	個			
諸雑費	6	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=10 【F】注入材(kg) C=11 【F】シール材(kg) E=12 【F】低圧注入器具(個)			B=0.12 D=0.49 F=19	注入材の必要数量(kg/構造物) シール材の設計数量(kg/構造物) 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)	





# 施工単価表

塗装塗替  
素地調整(2種ケレン)

V0000000002

単第0 -0004 表

1

式 当り

(RC-系塗装)

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	4.0	人			
特殊作業員	8.0	人			
普通作業員	4.0	人			
下地材 浸透性錆固定材 0.2kg/m2*1回	1.0	缶			1kg/缶
下塗り塗料 エポキシ樹脂系セラミックコーティング 0.3kg/m2*2回	1.0	セット			1kg/セット
上塗り塗料 ふっ素樹脂系塗料、淡彩 0.12kg/m2*1回	1.0	セット			4kg/セット
機械損料 ベビーサンダー・攪拌機	4.0	日			
諸雑費	10	%			#01
*** 単位当たり ***	1	式			



# 施工単価表

コンクリート舗装表面処理  
浸透防水型薄層表面処理

V0000000004

単第0 -0006 表

1

橋 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	2.0	人			
普通作業員	3.0	人			
高性能浸透プライマー アクリル樹脂系 0.4l/m2	1.0	セット			
5号珪砂 0.4kg/m2	2.0	袋			
薄層表面処理材 改良アスファルト乳剤	3.0	セット			
端部保護材	2.0	袋			
諸雑費	7	%			#01
機械器具損料 ブロアー、コンプレッサー 攪拌機、発電機等	1.0	日			
<賃>ダンプトラック 積載質量2t	1.0	日			
*** 単位当たり ***	1	橋			

# 施工単価表

殻運搬

SPK25040155

単第0 -0007 表

Co(無筋)構造物とりこわし

DID区間有り 運搬距離14.4km以下(10.9km超)

1

m3 当り

機械構成比: 40.77% 労務構成比:

44.82% 材料構成比: 14.41% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価: 2,422.50000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	40.77%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	44.82%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.41%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=2 DID区間有り E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=50 運搬距離14.4km以下(10.9km超)		

# 施工単価表

仮設工

V000000200

単第0 -0008 表

頁0 -0008

1 式 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
足場工(床版補強工) 桁高1.5m未満	60	m2			単第0-0009 表
足場工(朝顔)(床版補強工) 両側朝顔	60	m 2			単第0-0010 表
防護工(床版補強工) シート張防護工 両側朝顔	60	m 2			単第0-0011 表
防護工(床版補強工) 床面シート張	60	m2			
手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 手摺先行型枠組足場	50	掛m2			単第0-0012 表
土のう拵え, 積立, 撤去工 側面並べ	10	m2			単第0-0013 表
土砂等運搬 小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む) D1D区間有り 距離4.5km以下(3.5km超)	3	m3			単第0-0014 表
ポンプ運転 排水量_0以上120未満(m3/h) 全揚程_10m 作業時排水	3	日			単第0-0015 表
ポンプ設置・撤去	1	箇所			単第0-0018 表
*** 単位当たり ***	1	式			







# 施工単価表

手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場  
手摺先行型枠組足場

S0380

単第0 -0012 表

100 掛m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.600	人			
とび工	7.000	人			
普通作業員	1.300	人			
<作>ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25t吊,オペレータ付 排1~3,2011,2014	1.400	日			
諸雑費	34	%			#09
*** 合計 ***	100	掛m2			
*** 単位当たり ***	1	掛m2			
A=1 手摺先行型枠組足場 C=0 潮待割増			B=1	安全ネットを設置しない	



# 施工単価表

土砂等運搬

SPK25040002

単第0 -0014 表

小規模 土砂(岩塊・玉石混り土含む)

DID区間有り 距離4.5km以下(3.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 26.52% 労務構成比:

61.90%

材料構成比: 11.58%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,906.50000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	26.52%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00017T1 MTPT00017T1
運転手(一般)	61.90%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	11.58%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=2 小規模 C=1 土砂(岩塊・玉石混り土含む) F=21 距離4.5km以下(3.5km超)			B=5 バックホウ山積0.28m3(平積0.2m3) D=2 DID区間有り		











本 工 事 総 括 表

レベル1	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	計 算 数 量	計 上 数 量	摘 要
道路維持								
	道路維持修繕工							
		橋梁補修工						
			ひび割れ注入工	低圧注入（エポキシ樹脂2種）	m	4.8	5	
			断面修復工(左官工法)		m <sup>2</sup>	28.5	29	27.8+0.7
					m <sup>3</sup>	1.42	1.42	1.40+0.02
			表面保護工	上部工	m <sup>2</sup>	143.5	144	115.0+28.5
			水切工	橋梁床版用後付け型水切	m	24.0	24	
		舗装工						
			コンクリート舗装	浸透防水型薄層表面処理工法	m <sup>2</sup>	54.0	54	
		橋梁塗装工						
			支承防錆塗装工		m <sup>2</sup>	0.3	0.3	
		遊間防水工						
			防水材充填工	常温アスファルト乳剤型	m	5.4	5.4	
		運搬処理工						
			コンクリート殻運搬		m <sup>3</sup>	1.4	1	
			コンクリート殻処分		t	3.3	3	
		仮設工						
			足場組立・解体	吊足場(シート防護)	m <sup>2</sup>	64.5	60	
			足場組立・解体	枠組足場	m <sup>2</sup>	50.9	50	

部材別 数量総括表

工種	種 別	細 別	規 格	単 位	数 量									合 計	設計値
					上部工	下部工					地覆工、 高欄工	橋面工			
						A1橋台	A2橋台	P1橋脚					計		
橋 体 工	ひび割れ注入工	0.2mm～1.0mm未満	エポキシ樹脂注入材2種	m	3.20	1.00		0.60			1.60		4.80	5	
		エポキシ樹脂注入材2種		kg									0.12	0.12	
		シーラ材		kg									0.49	0.49	
		低圧注入器		個									19	19	
	断面修復工	ポリマーセメントモルタル(左官工法)	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理含む	m2	21.269			6.533			6.533		27.802	27.8	
			鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理含まない	m2		0.453	0.283			0.736			0.736	0.7	
		ポリマーセメントモルタル	m3										1.42	1.42	
	表面保護工	下地処理	高圧洗浄	m2	88.6			28.5			28.5	26.4	143.5	144	
		表面含浸工	無機リチウム系(シラン混合型)	m2	88.6			28.5			28.5	26.4	143.5	144	
				kg							143.5×0.15(kg/m2)		21.5	22	
水切工	水切設置工	橋梁床版用後付け型	m	24.0								24.0	24		
舗 装 工	遊間防水工	バックアップ材	樹脂発砲体(t=20mm) 倍率30倍	m2								0.11	0.11		
		防水材充填工	常温アスファルト乳剤型	m								5.40	5.40		
	コンクリート舗装工	浸透防水型薄層表面処理工法		m2								54.0	54.0		
塗装塗替え工		支承防錆塗装工	支承塗装塗替え	m2	0.3							0.3	0.3		
コンクリート殻処分				m3								1.42	1		
				t									3.34	3	
仮 設 工	足場工	吊足場	H<1.5m 朝顔両側・シート防護	m2	64.5							64.5	60		
		枠組足場		掛m2				50.9			50.9		50.9	50	

## 補修工数量計算書

### 1. ひび割れ補修工

#### ①ひび割れ延長

0.2mm以上1.0mm未満

$$L = 4.8 \text{ m}$$

#### ②シール材

シール材幅**b**=30.00mm シール厚**t**=2mm と仮定する。

単位質量 1700kg/m<sup>3</sup>

ロス率 1.37

$$W = 1700 \times 4.80 \times 0.030 \times 0.002 \times 1.37$$

$$= \underline{0.67 \text{ kg}}$$

(0.49 kg) (ロスなし)

#### ③注入材

エポキシ系注入材2種

単位質量 1150kg/m<sup>3</sup>

ロス率 1.4

注入深さ 0.4×200=80mm 平均注入幅 0.4mm の注入量。

注入器設置間隔 a=250mm

注入器設置数

$$N = 4.80 / 0.250$$

$$= \underline{19 \text{ 個}}$$

$$\text{注入量 } W = 1150 \times 0.080 \times 0.00040 \times 4.80 \times 1.40 / 2$$

$$= \underline{0.12 \text{ kg}} \text{ (ロス含む)}$$

### 2. 断面修復工 (ポリマーセメントモルタル 左官工法)

(1)鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理含む

上部工・下部工(橋脚)

断面修復工集計表より

$$A = \underline{27.8 \text{ m}^2}$$

$$V = \underline{1.40 \text{ m}^3}$$

(2)鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理含まない

下部工(橋台)

断面修復工集計表より

$$A = \underline{0.7 \text{ m}^2}$$

$$V = \underline{0.02 \text{ m}^3}$$

### 3. 表面保護工 (無機リチウム系(シラン混合型)表面含浸材)

#### 上部工

(1)下地処理工

表面保護工数量集計表より

$$A = 88.6 + 26.4$$

$$= \underline{115.0 \text{ m}^2}$$

(2)表面保護工

表面保護工数量集計表より

$$A = 88.6 + 26.4$$

$$= \underline{115.0 \text{ m}^2}$$

#### 下部工

(1)下地処理工

表面保護工数量集計表より

$$A = \underline{28.5 \text{ m}^2}$$

(2)表面保護工

表面保護工数量集計表より

$$A = \underline{28.5 \text{ m}^2}$$

#### 4. 水切設置工

橋梁床版用後付け型水切り

$$L = 6.10 + 5.90 + 5.90 + 6.10 = \underline{\underline{24.00 \text{ m}}}$$

#### 5. 橋面防水工

(1) 浸透防水型薄層表面処理工法

$$A = 27.0 + 27.0 = \underline{\underline{54.0 \text{ m}^2}}$$

#### 6. 橋梁塗装工

(1) 支承塗装塗替え

$$A = 0.1 + 0.1 + 0.1 = \underline{\underline{0.3 \text{ m}^2}}$$

#### 7. 遊間防水工

(1) バックアップ材

樹脂発砲体 (t=20mm) 倍率30倍

$$P1 : L = \underset{\text{延長}}{5.40} \times \underset{\text{深さ}}{0.02} \times \underset{\text{枚数}}{1} = \underline{\underline{0.11 \text{ m}^2}}$$

(2) 防水材充填工

常温アスファルト乳剤型

$$L = 5.40 = \underline{\underline{5.4 \text{ m}}}$$

#### 8. 運搬処理工

(1) Co殻運搬

$$V = 1.40 + 0.02 = \underline{\underline{1.42 \text{ m}^3}}$$

(2) Co殻処分

無筋

$$W = 1.42 \times 2.35 \text{ (t/m}^3\text{)} = \underline{\underline{3.34 \text{ t}}}$$

#### 9. 仮設工

(1) 吊足場(両側朝顔 ネット防護)

$$A = 0.400 \times 13.020 \times 2 + 4.500 \times 12.020 = \underline{\underline{64.5 \text{ m}^2}}$$

(2) 枠組足場

・P1橋脚

$$A = 2.300 \times 2 \times 2.960 + 6.300 \times 2.960 \times 2 = \underline{\underline{50.9 \text{ 掛m}^2}}$$

(3) 土のう設置撤去

側面並べ

$$A = \underline{\underline{10.4 \text{ m}^2}}$$

$$10.4 \times 14 \text{ (袋/m}^2\text{)} = 146 \text{ 袋}$$

$$146 \times 0.02 \text{ (m}^3\text{/袋)} = 2.9 \text{ m}^3$$

ひび割れ補修工集計表

部位		ひび割れ幅					
		0.2mm以上 1.0mm未満				1.0mm以上	
		位置	長さ(m)	位置	長さ(m)	位置	長さ(m)
上部工	床版下面	H-1	0.40	H-4	0.20		
		H-2	0.40	H-5	0.40		
		H-3	1.30	H-6	0.50		
	上部工 計	3.20				0.00	
下部工	A1橋台	H-7	1.00				
	P1橋台	H-8	0.60				
	下部工 計	1.60				0.00	
合計		4.80				0.00	

$$\begin{aligned}
 \text{加重計算} &= \frac{0.3 \times 0.4 \times 3 + 0.5 \times 1.3 + 0.2 \times 0.2 + 0.3 \times 0.5 + 0.5 \times 1.0 + 0.2 \times 0.6}{4.8} \\
 &= \frac{1.82}{4.8} \\
 &= 0.4
 \end{aligned}$$

断面修復工集計表

		部位	位置	寸法 (m×m)	補修面積 (m <sup>2</sup> )	補修深さ (m)	プライマー塗布面積 (m <sup>2</sup> )	補修体積 (m <sup>3</sup> )		
1 径間	床版下面	D-1		1.40 × 1.20	1.680	0.050	1.810	0.084		
		D-2		0.35 × 0.90	0.315	0.050	0.440	0.016		
		D-3		0.50 × 1.10	0.550	0.050	0.710	0.028		
		D-4		1.00 × 1.30	1.300	0.050	1.480	0.065		
		D-5		1.00 × 3.30	3.300	0.050	3.680	0.165		
	主桁	D-13		0.25 × 2.70	0.675	0.050	0.970	0.034		
		D-14		0.25 × 1.30	0.325	0.050	0.480	0.016		
		D-15		0.30 × 0.45	0.135	0.050	0.210	0.007		
		D-16		0.20 × 0.50	0.100	0.050	0.170	0.005		
		D-17		0.25 × 1.00	0.250	0.050	0.375	0.013		
		D-18		0.20 × 0.75	0.150	0.050	0.245	0.008		
		D-19		0.20 × 0.85	0.170	0.050	0.275	0.009		
		D-20		0.40 × 0.60	0.240	0.050	0.340	0.012		
		D-21		0.25 × 0.35	0.088	0.030	0.124	0.003		
		D-22		0.20 × 0.50	0.100	0.050	0.170	0.005		
		D-23		0.20 × 0.55	0.110	0.050	0.180	0.006		
		D-24		0.20 × 1.10	0.220	0.050	0.280	0.011		
		横桁	D-35		0.25 × 1.20	0.300	0.050	0.325	0.015	
	D-39			0.25 × 1.40	0.350	0.050	0.375	0.018		
	橋面	D-55		1.10 × 0.10	0.110	0.030	0.182	0.003		
		D-56		0.50 × 0.50	0.250	0.050	0.350	0.013		
		D-57		0.90 × 0.60	0.540	0.050	0.690	0.027		
		D-58		0.30 × 0.40	0.120	0.050	0.190	0.006		
		D-59		0.60 × 0.50	0.300	0.050	0.410	0.015		
	2 径間	床版下面	D-6		1.35 × 1.00	1.350	0.050	1.485	0.068	
			D-7		0.70 × 0.80	0.560	0.050	0.675	0.028	
			D-8		1.20 × 0.75	0.900	0.050	1.058	0.045	
			D-9		1.20 × 1.25	1.500	0.050	1.685	0.075	
			D-10		1.30 × 1.80	2.340	0.050	2.560	0.117	
			D-11		0.30 × 0.25	0.075	0.050	0.115	0.004	
		D-12		0.30 × 0.30	0.090	0.030	0.117	0.003		
		主桁	D-25		0.45 × 0.40	0.180	0.050	0.265	0.009	
			D-26		0.55 × 0.50	0.275	0.050	0.380	0.014	
			D-27		0.30 × 0.25	0.075	0.050	0.103	0.004	
			D-28		0.30 × 0.45	0.135	0.050	0.188	0.007	
			D-29		0.25 × 0.65	0.163	0.050	0.253	0.008	
			D-30		0.25 × 0.25	0.063	0.050	0.101	0.003	
			D-31		0.30 × 0.40	0.120	0.050	0.190	0.006	
			D-32		0.25 × 0.25	0.063	0.050	0.101	0.003	
			D-33		0.20 × 0.60	0.120	0.050	0.183	0.006	
			D-34		0.20 × 0.25	0.050	0.050	0.070	0.003	
			横桁	D-36		0.70 × 0.15	0.105	0.050	0.180	0.005
				D-37		0.20 × 0.15	0.030	0.050	0.048	0.002
		D-38			0.35 × 0.25	0.088	0.050	0.113	0.004	
D-40				0.50 × 0.25	0.125	0.050	0.138	0.006		
D-41				0.50 × 0.25	0.125	0.050	0.138	0.006		
橋面		D-60		1.00 × 0.70	0.700	0.050	0.870	0.035		
		D-61		0.25 × 0.25	0.063	0.020	0.083	0.001		
		D-62		0.35 × 0.35	0.123	0.020	0.151	0.002		
		D-63		0.30 × 0.30	0.090	0.030	0.126	0.003		
		D-64		0.15 × 0.15	0.023	0.020	0.035	0.000		
D-65			0.20 × 0.30	0.060	0.015	0.075	0.001			
上部工 計					21.269		25.943	1.052		

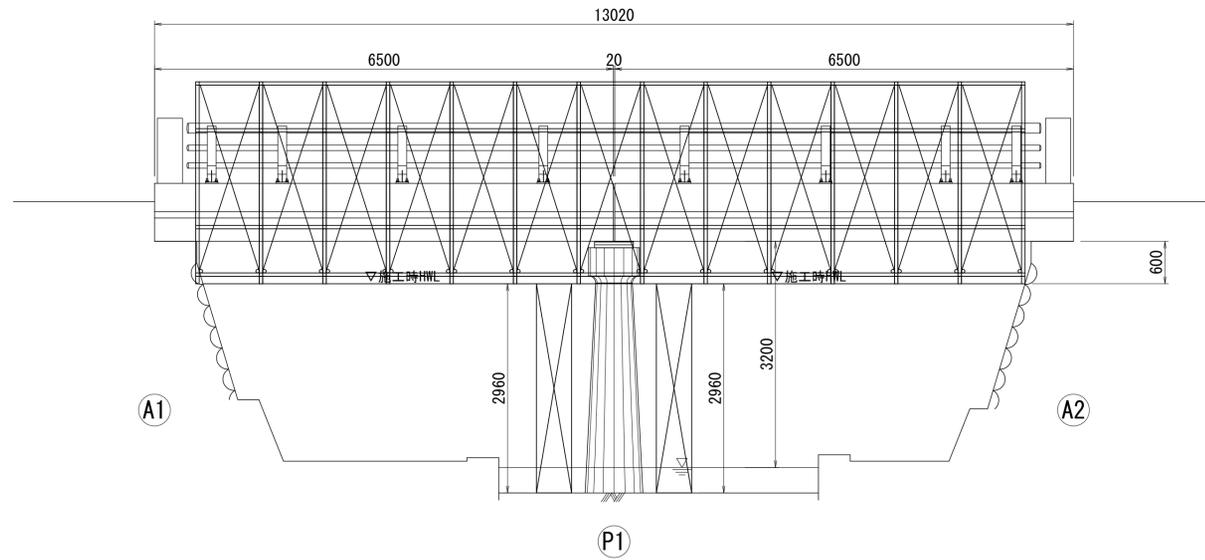
下部工	A1橋台	D-42	0.20	×	0.30	0.060	0.050	0.110	0.003
		D-43	0.25	×	0.25	0.063	0.050	0.101	0.003
		D-44	0.30	×	1.10	0.330	0.010	0.355	0.003
		A1橋台 計				0.453		0.566	0.009
	A2橋台	D-45	0.25	×	0.50	0.125	0.050	0.163	0.006
		D-46	0.10	×	0.90	0.090	0.050	0.145	0.005
		D-47	0.15	×	0.45	0.068	0.010	0.076	0.001
		A2橋台 計				0.283		0.383	0.012
	P1橋脚	D-48	1.80			1.800	0.050	2.083	0.090
		D-49	2.40	×	1.00	2.400	0.050	2.690	0.120
		D-50	0.60	×	0.30	0.180	0.100	0.360	0.018
		D-51	0.20	×	0.45	0.090	0.050	0.145	0.005
		D-52	1.80			1.800	0.050	2.083	0.090
		D-53	0.15	×	0.55	0.083	0.020	0.097	0.002
		D-54	0.60	×	0.30	0.180	0.100	0.360	0.018
		P1橋脚 計				6.533		7.818	0.343
	下部工 計				7.269		8.766	0.364	
	合計				28.538		34.709	1.416	

表面保護工集計表

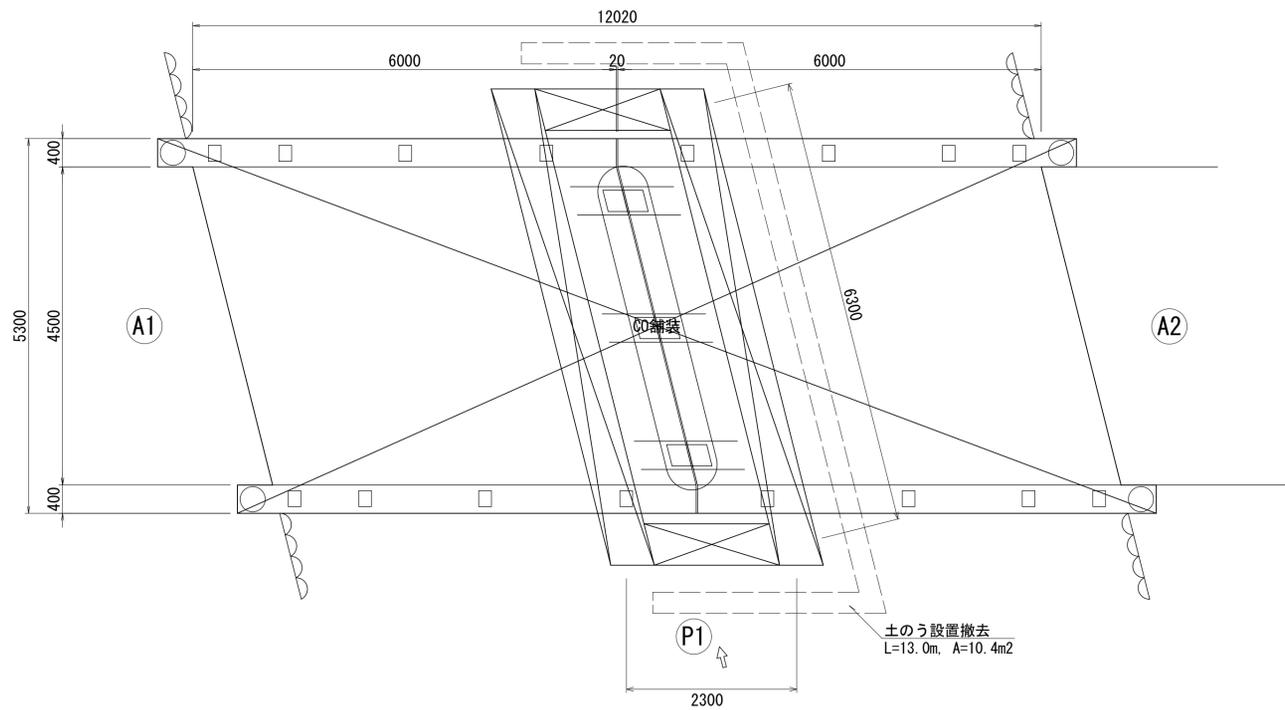
部位	計算式 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	備考
<b>上部工</b>			
床版下面	23.9 + 23.9	= 47.8	
主桁	5.9 + 5.9 + 5.8 + 5.8 + 5.9 + 5.9	= 35.2	
横桁	0.7 + 1.4 + 0.7 + 0.7 + 1.4 + 0.7	= 5.6	
合 計		88.6	
<b>下部工</b>			
P1橋脚	28.5	= 28.5	
合 計		28.5	
<b>地覆</b>			
左側地覆	6.6 + 6.6	= 13.2	
右側地覆	6.6 + 6.6	= 13.2	
合 計		26.4	

驛家橋 仮設図(参考図) S=1:50

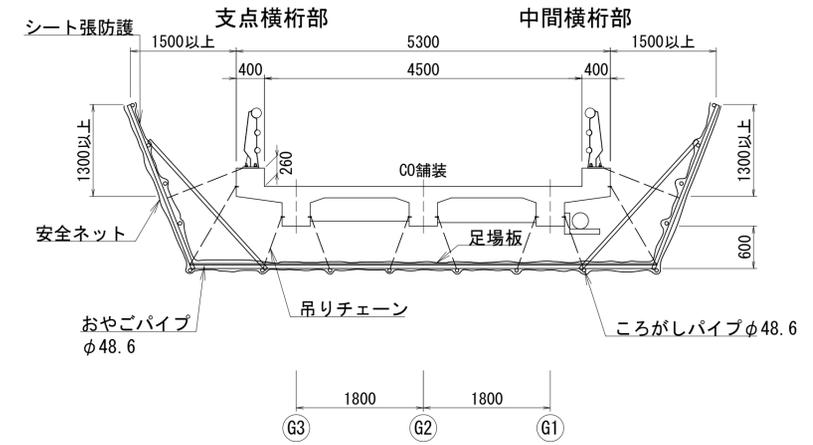
縦断面図



平面図(橋面)



横断面図



足場 数量表

名称	計算式	面積
吊足場	$0.400 \times 13.020 \times 2 + 4.500 \times 12.020$	64.5 m <sup>2</sup>
枠組足場 P1橋脚	$2.300 \times 2 \times 2.960 + 6.300 \times 2.960 \times 2$	50.9 m <sup>2</sup>

工事名	橋梁修繕工事(驛家橋)
図面名	驛家橋 仮設図(参考図)
作成年月日	2026年2月
縮尺	図示 図面番号 1 / 1
工事箇所	福山市駅家町地内
	福山市